



<b>心理学概論B</b>			科目コード	<b>FA2532</b>
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
<b>2</b>	<b>R or SR</b> (講義)	<b>1</b> 年以上	<b>佐藤 俊人・平泉 拓</b>	
履修登録条件	「心理学概論A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。			

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 28「心理学概論」(FA2501、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

## 科目の概要

### ■科目の内容

「心理学概論A」 p. 18参照。

### ■到達目標

- 1) 心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。
- 2) 心理的支援の考え方の基本を説明し、実践することができる。

### ■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

### ■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価or科目修了試験50%

### ■教科書・参考図書

#### 【教科書】（「心理学概論A」と共通）

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門（四訂版）』培風館、2016年（四訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2016年4月

※「心理学概論A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を持参してください。主に図表の参照として使用します。

## 【参考図書】

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA、2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

## スクーリング

### ■スクーリング受講にあたっての留意事項

「心理学概論A」のスクーリングを受講してから、本科目を受講することを推奨します。

### ■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達について考える①	生まれてから就学前までの発達の様相と育児に関する考え方を学ぶ。
2	発達について考える②	児童期から青年期までの発達の様相とアイデンティティの確立について学ぶ。
3	欲求不満と防衛機制	精神分析的な視点から、自分の欲求不満と付き合いするための方略を学ぶ。
4	カウンセリングの考え方①	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本的な考え方を学ぶ。
5	カウンセリングの考え方②	カウンセリングマインドと、日常への応用性について考える。
6	心理学的な情報を冷静に判断して考えるということ	心理学の諸理論の根拠とされてきた現象や事例について正しく理解し、自分なりの判断力を持つことを学ぶ
7	心理学的支援の考え方	心理学が実学であることを再認識し、これからの自分の活動にどのように応用できそうかを考える。
8	まとめ	第1回から第7回までの学習内容を振り返り、到達目標に沿って再考する。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

### ■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。

### ■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）

「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

## ■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

### レポート学習

#### ■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会的行動（社会心理学）①個人と社会（p. 5～18） 第1部1章1. 1～1. 3	社会心理学研究の諸理論を理解する。	多くのストレスは対人関係に起因するものです。社会心理学の基本を学ぶことにより、自由に活動しているように見える個人が、いかに社会的な要因によって縛られているかを考えてみましょう。
2	社会的行動（社会心理学）②コミュニケーション（p. 18～33） 第1部1章1. 4～1. 7	集団の中でも個人の動きについて、社会心理学的な視点から理解する。	社会心理学の諸理論は、自分の周りに実際にある事例などを考えながら学習することが、理解をより深めます。日常生活の中で、心理学がどのように観連しているのかを考えながら学習してみましょう。
3	パーソナリティと適応（臨床心理学）3 適応と防衛機制（p. 50～70）	① フラストレーションに関する理論を理解するとともに、私たちがフラストレーションと戦うために持っている防衛機制について理解する。	様々な不適応状態についての基本を概観するとともに、そのような状態に対する心理的支援の方略としてどのような方法があるのか、その基本を学び、将来の臨床心理学的な支援への足がかりをつかみましょう。
4	第1部2章2. 3～2. 6	②	
5	成熟と成長（発達心理学）1（p. 71～82） 第II部3章3. 1～3. 2	① 発達とは青年期までだけのものではなく、超高齢社会にも対応した発達観があることを理解するとともに、発達心理学における研究方法について理解する。	人間の発達の様相を研究する様々な方法がありますが、それぞれ長所と短所があります。また、例えば遺伝の力を確かめているような研究でも環境要因を排除できていなかったり、因果関係と相関関係を混同していたりする例も少なくありません。自分なりに疑いながら考えてみましょう。
6		②	
7	成熟と成長（発達心理学）2（p. 82～99） 第II部3章3. 3～3. 5	① 発達に関する古典的な研究について理解する。また、研究の倫理についても考える。	発達心理学では、例えば代理母実験のように、現代では倫理的に実施できないような研究も多くなされてきました。また、人間の親子関係を理解する出発点として、他の動物たちとの比較もされてきました。これら貴重な研究を理解することにより、人間の発達について自分なりに考えてみましょう。
8		②	

回数	テーマ		学習内容・キーワード	学びのポイント
9	学習と同期づけ・情動（行動心理学）3 動機づけ、情動（p.114～124） 第Ⅱ部4章4.2	①	動物に行動を起こさせる動機について、本能的なものから社会的なものまで理解する。また、感情というものがどのように生じているのかを理解する。	動物の行動には、さまざまな動因が考えられます。本能的なものであったり、社会的なものであったりしますが、その理論を把握することにより、誰かに何かを行動してほしい際の心理的支援に結びつけることができます。また、感情の発生について脳の働きと関連づけて考えてみると、心理療法への応用も可能になるでしょう。
10		②		
11	記憶・言語・思考（認知心理学Ⅰ）2 言語・思考（p.138～150） 第Ⅲ部5章5.2～5.3	①	思考に及ぼす言語の影響に関する諸理論を理解する。また、「知能」に関する諸理論を理解し、自分なりに知能を考える。	何ができれば知能が高いのか、については大変難しい問題です。第2章に取り上げられている知能検査を参照しながら、知能に関する諸理論を学んでみましょう。さまざまな問題解決の方法について学んでみましょう。特に試行錯誤学習や洞察学習については、学習と動機づけの章と関連づけながら考えてみてください。
12		②		
13	心的活動の生理学的基礎（生理心理学）（p.179～199） 第Ⅳ部7章7.1～7.9	①	脳の機能に関する基本的な情報を理解する。	脳科学の発展により、人間の思考や感情を脳内物質や電気信号レベルで説明されるようになってきましたが、それでもなお説明しきれない部分はたくさん残されています。脳の各領域の機能を理解しながらも、脳科学で心を説明する限界なども考えながら学習してみましょう。
14		②		
15	まとめ 心理的支援の方法の立案		心理的支援のプログラムを提案する	身の回りで心理的に支援を必要としている事例を具体的に探してみ、具体的にどのようなプログラムを提案できそうかを考えてみてください。そしてそのプログラムはどのような心理学的理論に関連しているものなのかを確認しながら考えることが必要です。なお、実際に心理的支援を行う必要はありません。

## ■レポート課題

1 単位め	「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

### 1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2単位め  
アドバイス

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロウによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子どもはさまざまに変容し得る存在です。

また、「必ずしも親が子どもに一方向的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（四訂版 p. 93 図 3-33、三訂版 p. 87 図 3-27、改訂版 p. 143 図 6-26）に示されるような関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがままになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがままな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

## 科目修了試験

## ■評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。